

特集 **内陸アジア**  
彩り際立つフロンティア



JICAキルギス事務所  
カザフスタンフィールドオフィス  
村山満穂(むらやま・みつお)さん(右)

内陸アジアを初めて訪れたのは青年海外協力  
隊員としてモンゴルで活動したとき。その後JICA  
東・中央アジア部でモンゴルを担当し、2017年4  
月からカザフスタンフィールドオフィスに勤める。



街路樹も凍りつく  
冬のヌルスルタン。



円借款で建設さ  
れたイルティシユ  
川にかかる橋。

『mundi』読者に伝えたい、内陸アジアの魅力

内陸アジアの料理は、世界各地に出張経験のあるJICAスタッフ  
たちによれば「日本人の口に合う」そうです。お米もあり、スパイス  
よりも出汁に近い味つけが多いせいでしょか。遊牧民の国も多いので、羊肉や馬肉も一般的に食べられます。寒そうなイメージが  
あるかもしれませんが、カザフスタンでは室内は暖かく、真冬でもT  
シャツ1枚で過ごせますのでご心配なく。



JICAの元研修員(中央)  
と現地スタッフ。



フィールドオ  
フィスの現地ス  
タッフ。2016年  
度のタジキスタ  
ンでの同窓会  
にて。



カザフスタンの  
トラスバイル塩湖。



カスピ海沿岸の街、  
アクtau



JICA東・中央アジア部  
田中祐真(たなか・ゆうま)さん

外務省の在外公館専門調査員としてカザフ  
スタンの日本大使館に3年間勤務。2020年4月  
からJICA東・中央アジア部で、タジキスタンと  
ルクメニスタン、ウズベキスタンの一部担当。



「5本の指」を意味する  
カザフ料理の代表、ペシユバルマック。



お祝いの席で振る舞われる  
ヒツジの頭のれ煮!

『mundi』読者に伝えたい、内陸アジアの魅力

カザフスタンは、訪れたら新しい発見があるはず。治安がよく、また文化としてもなが好きで、とても人々が暖かい国です。街も清潔で過ごしやすいといわれますね。ちなみに首都のヌルスルタンは、日本の建築家である故・黒川紀章氏の都市計画案に基づいて開発されています。

遠くて近い国々の魅力

JICAスタッフが語る  
内陸アジア

内陸アジアに関わり、現地の文化や課題を肌で知る3人が、  
地域の魅力やこれからの日本との関係を語る。

中から見た内陸アジア

**上原**…内陸アジアは日本人の多くにとっては遠く、まだまだなじみがない国々でしょうね。  
**村山**…具体的なイメージが湧かないことや、もしかすると独裁政権の国が多くて怖そうな感じがすることも日本人にとってはとっつきにくい理由の一つかもしれません。この地域は国名に「スタ」とつくところが多いんです。それを聞いて世界の人々は紛争が多い国を連想するのか、「治安が悪いところだよな」なんて言われてしまっ。 **田中**…実は現地の人もちもけつこう気にしているんですよ。キルギスはまさにキルギスタンから国名を変えましたよね。カザフスタンでも過去にはけつこう真面目に議論されて、「カザフ国」に変えるという案もあったとか。  
**村山**…カザフスタンは特に、すごく治安がいいんですけどね。親日的な国が多い地域でもあります。  
**上原**…この地域には日本センターもたくさんあって、そこで日本語を学んだという人も多そうですね。  
**村山**…もちろん東南アジアと比べれば少ないですけどね。ちなみにモンゴルは人口およそ330万人と絶対数は少ないですが、日本語を勉強している国民の割合で言うと世界でもトップクラスなんですよ。

地域の課題と向き合う

**田中**…カザフスタンでは、もともと日本人とカザフ人は先祖が一緒なんだと現地の方はよく言います。バイカル湖のあたりに、ある民族がいて、魚が好きなたちは東の海を渡って日本にたどり着き、お肉が好きなたちは西へ渡ってカザフ人になったという話がけつこう信じられていんですよ。キルギスやモンゴルでもどうやら一緒らしいですね。ちなみに私は非常にカザフ人顔のようで、現地では確実にカザフ人だと思われて、「なんでカザフ人なのにカザフ語が話せないんだ!」と怒られたこともありますが……それぐらい、日本人と顔立ちが近いわけです。  
**上原**…カザフスタンは長年の課題として、資源依存型の経済から脱却して持続的な経済成長をするために、産業の多角化を目指しています。それには中小企業の振興が重要となっており、たとえば「カイゼン」の専門家を派遣するなどの協力をJICAが行ってきた。内陸アジアの国々の中では発展が目覚ましく、私がフィールドオフィスに勤務していたときには、カザフスタンが地域の他の国にODAなどで協力していきたくて、KazAIDというカザフ版のJICAのようなODA実施機

これからのつながりかた

カザフスタンと比べると閉ざされている部分が多い。現在はミルジヨーフ大統領のもとで開かれつつありますが、今のペースを見ているともう少し時間がかかるのかなというのが私の実感です。  
**上原**…キルギスでは最近、日本語のできる人が日本で観光分野の仕事に就いたり、あとは介護の現場で活躍されたりしています。介護を受ける側が、外国人の職員さんに緊張してしまうというケースがあるのですが、田中さんの話にもあったように、内陸アジアの人は日本人と顔が似ているのでわりと

すんなりなじむのだとか。そのようにビジネスの場面でも、今後もっと交流が増えてくるのではないかなと個人的には期待しています。  
**村山**…カザフスタンは国内の格差はまだまだ大きいですが、JICAが協力をしている国の中でも所得が高い国です。従来のODAと並行して、民間企業も巻き込んだビジネス交流をしたいという相談はカザフスタン側からもあるんです。民間連携事業のようなメニューをうまく使って、この地域に対して協力を継続することが今後ますます必要になってくるのかなと思います。すでに関連の研

修も開始されていますが、このような協力をさらに拡充し人材交流を活発にできたらいいですね。  
**田中**…ソ連崩壊後から長年続けてきたJICAを含む日本政府の協力によって、さまざまな分野でつながりの「芽」が今まさに育ちつつあります。カザフスタンにいたころ、一般の方でも「うちの地元の橋を造ってくれたのは日本人だよ、ありがとう」なんて言ってくれることがありました。地元にも根差すつながりはこれからも大事にしたいですね。今後の発展と足並みをそろえながら、継続的な協力関係を維持していきたいと思えます。



カザフスタンの首都  
ヌルスルタンの街並み。

タジキスタンの  
現地の少女。

キルギスのスキー場

草原が美しい  
夏のキルギス。

『mundi』読者に伝えたい、内陸アジアの魅力

多民族国家のカザフスタンやキルギスでは、外国人ということ意識しないで暮らせるのが個人的にはとても魅力的でした。からっとして居る気候も、日本の高温多湿な夏が苦手な人には過ごしやすいですよ。キルギスの場合、美しい自然のほかにスポーツやレジャーなどのサービスが安価なのも特徴です。



JICAキルギス事務所  
上原牧子(うえはら・まきこ)さん(中央)

JICAの開発調査団のロシア語通訳としてカザフ  
スタンを訪問したことが内陸アジアとの出会い。  
2014年4月から17年4月までキルギス事務所カザ  
フスタンフィールドオフィスに勤務。

\*2 日本の品質管理、生産性向上のための手法の総称。  
\*3 カザフスタン共和国外務省管轄下の組織として設立されたODA実施機関。  
\*4 野菜などの鮮度を保つため、冷蔵庫や冷庫で保管・輸送する仕組み。

\*1 日本人材開発センター。市場経済移行国における「顔の見える援助」として、またビジネス人材育成、日本語教育、日本との交流および相互理解促進の拠点として構想され、2000年より順次開設。現在、東・中央アジア、東南アジア地域の9か国に10センターが設置されている。